



学校評価アンケートから見えてくるもの（後期）

新型コロナウイルスの影響で授業開始が2か月遅れ、制限された学習活動を強いられた令和2年度も、いよいよ終わりとなります。子どもたちは制限された環境の中であっても、4月から今日まで、一生懸命、勉強や運動に取り組んできました。その成果が結果として現れる時期です。先月、ご協力いただきました後期の学校評価アンケート（1年生から6年生までの児童、保護者の皆様、教職員より出していただいたもの）についてお知らせします。この内容はあいあい山階理事会においてもご意見をいただきます。そして、来年度の山階小学校の指針の一つとして取り入れていきたいと考えています。よろしくお願ひいたします。質問は23項目（保護者は24項目）でした。学校でのこと、自分自身のこと、先生のこと、地域での過ごし方、おうちでの過ごし方など多岐にわたっていましたが、その中で、山階小学校の特徴的な項目を紹介して考察します。

良い点（できている、だいたいそう思う）が多い質問項目から

保護者

子どもは明るく前向きに生活している。

前期 後期

97.4%→98.7%

子どもは楽しい学校生活を送っている。

96.8%→98.7%

子どもは基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。

92.5%→96.4%

1, 2年生

じぶんは やればできるとおもう。

93.3%→92.2%

わたしには よいところがある。

89.5%→91.0%

できるようになったことがたくさんある。

89.3%→95.1%

がっこうへいくことは たのしい。

76.2%→83.3%

3～6年生

自分はやればできると思う。

91.6%→90.7%

楽しい学校生活を送っている。

91.6%→93.7%

以前より自分は、成長している。

93.7%→93.3%

本校児童の自己肯定感はとても高く、自信をもって学校生活を送っています。また、学校に楽しく通っている児童が多くみられます。前期から高い水準で横ばいか微増傾向にあります。コロナ禍であっても、学校で友だちに会えることや新しい学習様式に慣れて充実した学校生活を送れるなど、適応がうまくいったと考えられます。

保護者

先生は子どものために頑張ったことを認めてくれる

前期 後期

92.9%→95.9%

先生は子どもを理解し、話を聞いてくれたり悩みの相談にのってくれたりする

89.1%→92.8%

クラスでの友だち関係、教員との関係、ともに高い肯定的な印象をもっている様子が見られます。前後期の間に有意な差はあるとは言えませんが、1, 2年生は、休業明けに認識が改善したと考えられます。

1, 2年生

クラスの人はこえをかけてくれたり、親切にしてくれたりする。

87.5%→93.1%

せんせいは はなしをよくきいてくれたり こまったときは
そうだんにのってくれたりする。

89.4%→96.1%

クラスでの友だち関係、教員との関係、ともに高い肯定的な印象をもっている様子が見られます。前後期の間に有意な差はあるとは言えませんが、1, 2年生は、休業明けに認識が改善したと考えられます。

3～6年生

学級の人たちはやさしい言葉やはげましの言葉を言っている。

91.6%→94.8%

先生はがんばったことをほめてくれる。

90.5%→91.7%

先生は話をよく聞いてくれたり悩みや相談にのってくれたりする。

90.1%→89.0%

結果から

前期に引き続き子どもたちは「元気に登校 笑顔で下校」の学校教育目標を全うできる環境であるといえるでしょう。「楽しい学校生活を送っている」の高い肯定的な結果は、山階小学校の特徴である地域の先輩や地域の方々のいろいろな面での学校への支援・協力に起因しています。支援・協力なくして子どもたちが楽しみにしている学習活動はないと考えます。学校は、子どもたちの指導の中で「共感的な人間関係の育成」「自己存在感をもてるようになる」ことを大切にしています。上記の結果の「自分は やればできると思う。」という項目で多くの児童が自信をもってかれていることは大切にしている部分が実現されているという面からうれしい結果と考えています。

2つ目の「共感的人間関係の育成」に関しても、前期に引き続き関連質問で高い結果が出たことはうれしい結果です。ただ、これに満足することなく、自己肯定感が低かったり共感的な人間関係を強く意識できていなかったりする子どもたちの意識を改善できるように取り組んでいかなければいけないとも考えています。制限されていた「たてわり活動」「部活動」「学校行事」などを新型コロナウイルス感染拡大防止に気を付けながら、新しい学習様式で再開していくと考えています。その中で、自己の価値を見出したり、協働活動する中で共感的な人間関係をはぐくんだりしてほしいと思います。

評価が低かった点（あまりそう思わない、思わない）が多い質問から

保護者

	前期	後期
子どもは進んで読書している。	52. 3%→43. 4%	
子どもは進んで家庭学習をしている。	40. 7%→39. 3%	
1, 2年生		
すすんで ほんをよんでいる。	18. 3%→16. 0%	
おうちで30分くらいべんきょうしている。	34. 6%→23. 5%	
3～6年生		
進んで読書をしている。	39. 5%→45. 0%	
家で（適切な時間）勉強している。	26. 7%→26. 1%	

早寝・早起き・朝ごはんの否定的（あまりそう思わない、思わない）回答

保護者 20. 6%（睡眠時間に限る） 1, 2年生 21. 7% 3～6年生 18. 8%

インターネットに関する質問に対する回答

否定的（あまりそう思わない、思わない）回答

保護者 49. 8%（モラル） 1, 2年生 9. 0% 3～6年生 18. 2%

結果から

読書、家庭学習に少し課題を感じます。読書に関する質問から否定的な回答が多く感じられました。この傾向は学年が進むにつれて大きくなっているのも気がかりです。高学年になるにつれて、「習い事などで忙しくなる」「興味のあることが増える」等読書から思いが離れる様子は見られます。学校では学校司書に協力してもらい、よみきかせや図書の案内、100冊読書の推奨などを行っています。ご家庭でも親子読書にご協力いただきました。

インターネットの質問項目から、保護者の方はモラルなどに関して心配されている様子が窺われます。それに対して、子どもたちの回答は学年が上がるにつれて扱う自由度が上がっている傾向がみられます。教職員の聞き取りなどからゲームや動画サイトに時間を取られ、「宿題を始める時刻が遅くなる」「就寝時刻が遅くなる」「宿題ができない」などの影響が懸念されます。「睡眠時間が削られ朝が遅くなり朝食を食べられない」「眠いので学校に行きづらい」などの問題の原因にもなっているように思えます。時間の使い方を大局的に考えられるようになることが学習面でも生活面でも大きな課題となっていると思えます。学校では、特に、生活習慣の乱れる傾向が大きくなる長期休業明けに「生活点検」を行っています。今以上にその結果をお知らせし、ご家庭のご協力を願いしていきたいと考えています。また、体育科（保健）、家庭科の学習や「ほけんの日」の学級指導の中で「適切な睡眠時間」や「生活習慣」についての学習をより大切にしていきたいと考えています。

データはともに否定的な回答をした割合です。改善傾向はありますが、もう少し読書に親しんでほしいとかんがえています。また、家庭での学習をしっかりとする習慣が十分とはいがたいといえます。直接、読書や学習とは関係しない質問項目ではありますが、睡眠時間との関連が考えられます。教職員の児童からの聞き取りなどから、いずれも否定的な回答をした児童の課題として、ゲームや動画サイトの観察が挙げられます。